白神トピックス

市場評価を追い風に

りんどう部会

りんどう部会（菊地昇一部会長）は7月７日、藤里町の集出荷所にて目揃会を開催し出荷を前に品質や出荷基準、彩花の留意点などを確認しました。

菊地部会長は「今日の目揃会を皮切りに、よい規格よい商品をたくさん出荷し産地拡大を目指しましょう」と挨拶しました。既にながの極早生の出荷は始まっており、今年度は12名の生産者、４haの面積で出荷量1,099ｔ、販売金額2,900万円を目標としています。白神山地の麓で栽培される白神りんどうは、鮮やかな紫色で市場評価も高く、今年も順調にきれいな花を咲かせています。

▲白神りんどうの出来を確認する生産者

▲規格の確認をする生産者

出荷規格の統一を確認

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）は７月１日、トマト収穫を前に営農部会議室にてトマト目揃会を開催し、生育状況や出荷規格について確認しました。

目揃会には生産者やＪＡ、地域振興局普及課、市場関係者など約20名が参加。普及課職員から「７月に入り雨が増える予報が出ている。曇りや雨の日が続くと、灰色かび病の発病が増えてくることが予想される。また害虫の発生も多い見込みなので防除を徹底してもらいたい」と話し、JA職員からは「高単価での推移となっているので、ハウス内の巡回をして１玉でも多く出荷してもらいたい」と生産者の方々に呼び掛けました。

『白神ねぎ』がいよいよ出荷スタート

ねぎ部会

ねぎ部会（山谷初男部会長）は７月22日に夏ねぎ目揃会を開催し、生産者・ＪＡ・市場関係者など約60名の参加のもと、市場動向や出荷規格の確認等を行いました。

はじめに、山谷部会長が「４月に作付けを行い、出荷に向けて各生産者が努力している。高単価で推移しているものの、これから東北各産地での出荷が始まるので、出荷規格を守り買う側に選ばれる商品作りを心掛けましょう」と挨拶しました。その後、普及課職員から病害虫についての説明があり「近年、さび病の発生が夏ねぎで多く見られ今年も目立っています。多発すると防除も困難になるので初期の防除を心掛けてほしい」と注意を呼び掛けました。

▲出荷本番に向け規格の確認を行った

▲病害虫防除の説明を受ける生産者

選ばれる商品作りを心掛ける

みょうが部会

特産品であるみょうがの収穫・出荷を目前に控え、みょうが部会（工藤寿部会長）は、７月30日に能代市工業団地で目揃会を開催しました

生産者やＪＡ、市場関係者合わせて約70名が参加し、これまでの生育状況や今後の管理、市場情勢などについて説明を行いました。工藤部会長は、「軟腐病や葉枯病の発生は少ないが、今後の天候により根茎腐敗病の発生のおそれがあるので定期的な防除をしてもらいたい」と挨拶しました。全県トップの30.1haの栽培面積で、今年度は出荷量92ｔ、販売高１億１千万円の達成を目指し、いよいよ収穫が始まります。

蟹座（6・22～7・22） コミュニケーション能力が活性化。初対面の相手とも、すんなり親しくなれそう。誰にでも気さくに話し掛けて